

躍進するSPECTRALIS

~SS-OCT vs SD-OCT~

日時▶ 2015年4月18日(土) 7:45~8:45

会場▶ 第5会場(ロイトン札幌 2F ハイネスホール)

OCT2

座長



吉村 長久 先生 [京都大学]

1977年 京都大学医学部卒業
1989年 京都大学医学部講師
1993年 大津赤十字病院眼科部長
1994年 京都大学医学部助教授
1995年 信州大学医学部教授
2004年 京都大学大学院医学研究科教授

1990年代後半から本邦で臨床応用が始まったOCTは、当初のTD-OCT(Time-domain OCT)から2006年にSD-OCT(Spectral-domain OCT)が登場し、一気に臨床の現場に普及しました。そして、今や時代はSS-OCT(Swept source OCT)へ向かっているようにも思えます。

確かにSS-OCTは魅力的な診断機器ではありますが、今後、OCTが全てSS-OCTになっていくのかと言われると、答えに困るの

が現実かも知れません。

Heidelberg社のSPECTRALISは、高解像で鮮明なOCT画像が得られることで知られていますが、そのSPECTRALISに新しくOCT2がリリースされる予定です。

OCT2はSS-OCTではなく、SD-OCTです。100kHzのSS-OCTに比べスピードは70kHzと確かに劣りますが、解像度や画像の鮮明さはSS-OCTと同等若しくはそれ以上の印象を持ちました。

本セミナーではこのように魅力的なOCT2についてHeidelberg Engineering社のMartin Long氏に、開発者の観点からお話し頂きます。また、東京女子医科大学の飯田知弘教授には、実際に臨床で使われた経験や印象などをお聞きしたいと思います。

SD-OCTをリードしてきたSPECTRALISがOCT2になって、どのように進化したのか、今からお2人のお話が楽しみです。

演者



SPECTRALIS New Developments

Mr. Martin Long [Heidelberg Engineering社]

Martin Long is the Director of Professional Education at Heidelberg Engineering. He has worked in the ophthalmic industry for 35 years and has a worldwide knowledge of ophthalmology, especially in glaucoma and imaging.

演者



SPECTRALIS OCT2の實力

飯田 知弘 先生 [東京女子医科大学]

1985年 新潟大学医学部卒業
1998年 群馬大学医学部眼科講師
2000年 Manhattan Eye Ear & Throat Hospital留学
2001年 群馬大学医学部眼科助教授
2003年 福島県立医科大学眼科教授
2012年 東京女子医科大学眼科主任教授
現在に至る